

巨大イベントに成長した有度山

有度山ロゲイニング 2015 2015年2月1日 静岡県静岡市



会場西に延びる川合山の尾根からは静岡の市街地が暖かい日差しの元に輝いていた

静大の裏山で卒業生をメインターゲットにして密やかなに行われたフォトロゲイニングの好評に気をよくして2007年にスタートした有度山トレイル三昧も、今年で7回目を迎えた。

2015年2月1日(日) 静岡県静岡市
有度山ロゲイニング大会

コースに工夫を凝らす有度山

土曜日に行うトレランは、定員を30名ほど増やして180人としたが、それでも定員が埋まるまで一週間もかからなかった。ロゲイニングの方も450人を越えるエントリーの巨大大会に成長してしまった。有度山トレイル三昧が

なければありえないほどの数の人々が、静岡の街とその郊外の里山を楽しんだ。

有度山ロゲイニング2015は、静岡市北部市街地とそれを取り囲む丘陵をトレインとして行われた。このため、これまでの使ったことのない丘陵を含むエリアが1/3ほど、また残り1/3も昨年とは異なるエリアだったので、参加者にとっては全体的に新鮮な感覚でレースができたことだろう。会場となる常葉大学短期大学部を取り囲む梶原山(標高約300m)と南沼上丘陵(標高約150m)は、いずれも静岡市街地を臨み、随所に展望も開けている。特に梶原山丘陵は、静岡市から清水港、駿河湾から伊豆半島、さらには富士山までの眺望をほしのままにする絶景の地で、多くの参加者がその眺めを楽しみながら休憩をとっていた。

ポイントと配点にも工夫を凝らした。

フォトロゲイニングでは、一般にそのエリアの名所などがポイントになることが多い。本大会では、毎年テーマ設定をし、そのテーマにちなんだチェックポイントを設定している。今回のテーマは会場にほど近い梶原山丘陵の名前の由来となった鎌倉武士の梶原氏および梶原氏と戦った吉川氏、そしてその舞台を作った自然をテーマとした。事前にはフェイスブックにポイント設定中に会った市街地の興味深い景観を紹介しながら、イベントのプロモーションを行うと同時に、参加者がイベントを楽しみながら迎えられることを企図した。

配置と配点にも配慮した。ポイントは均等に配置し、随所に作戦変更の余地を残した。ゲームの進行とともに変わる状況に臨機応変に対応し点数を伸ばすのがロゲイニングの魅力だからだ。会場からの距離に応じてエリアの配点

がほぼ互角になるようにする。自然な流れに逆らう方向のポイントの点数を高くして覚悟や勇気を問う、会場の近くのポイントを高くして、初心者やファミリーにも成功感を提供する。すべてはロゲイニングに集まる多様な人々がそれぞれに楽しめることを目指した工夫である。毎年少しずつ増える参加者は、その工夫が適切なものであったことを証明してくれている。



作戦タイムスタート。大きなプランは比較的容易だが、細かい部分で参加者に何度も意思決定を要求するコースを提供した。

激戦・混戦！

優勝したのは、ロゲイニングの帝王こと柳下大が、トレイルランのトップ選手福田由香里とともに混合に出場し、男子組と並ぶ1330点の得点で混合クラス優勝。第二回堀本杯を獲得した。男子組は札幌農学校の池・永松組、家族では昨年優勝で招待選手であったトータスの国沢・国沢チームを同点ながらタイムで抑えたハムちゃん宮崎・宮崎組が優勝した。また女子は珍しく出場数が多く、激戦となる中、「おでんだ！チョコっち」が制した。1000点前後からの得点を伸ばしにくい配置のため、全体に上位から中位にかけてが激戦となった。



大都市静岡の市街地そばとは思えないのどかな田園風景がひろがっている中を走る参加者。



富士山を望む頂上で昼食を取る参加者。一番右は第一回男子組優勝者の安斉さん。当時は手前の男の子を背負っての参加だった。

運営にも工夫を凝らす

フォトロゲイニングは、準備は比較的楽だが、短時間に写真判定、計算を確実にやり、1時間以内に成績を出し表彰式を行うというハードルがある。有度山ロゲイニングでは、少しずつ規模拡大する中で蓄積したノウハウを利用して、150チームの成績処理を40分という短時間で行うことに成功した。具体的には机を3列に並べ、1列目は写真判定、2列目は得点計算、3列目はPC入力という分業作業を行う。写真判定では最大10人による処理、得点計算は最大6人で処理、PC入力はクラスを二つのカテゴリーにわけて2台で処理。非常にアナログであるが、その場で初めて仕事を受けるスタッフでも手伝い可能なシステムとなっている。しかも、データは常に写真確認表によって処理されるため、全体の作業の進捗状況も写真表の流れによって可視化されているので、処理の状況によって、

柔軟に作業配分を変えることも可能である。大量に必要な処理スタッフは、参加費を割り引きするなどして、参加者の中から確保している。



平和な時間帯の写真照合、計算ルーム。3列で形成されたラインで170チームの写真照合と計算を40分で仕上げた。

各地でロゲイニング大会が気軽に開かれている。それだけにオリエンタリングとはまた違った質の提供も課題となっている。「グローバルスタンダードな競技環境を身近な場所で」をモットーにイベントを提供していきたい。(村越 真)



当日はナビゲーションゲームズ最終戦も兼ねており、年間チャンピオンには柳下大選手、2位3位は常に同ペアで出場した田中・竹内選手が分け合った。